

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人 福井県文化振興事業団	
施 設 名	福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」	
助成対象活動名	公演事業	
内定額（総額）	22,385	(千円)
公 演 事 業	22,385	(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アンドレス・オロスコー＝エストラーダ指揮 フランクフルト放送交響楽団 ピアノ：チョ・ソンジン	平成30年6月15日(金) 19:00～21:00	[出演]フランクフルト放送交響楽団 チョ・ソンジン 他 [曲目]ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番、マーラー：交響曲 第5番	目標値	1,165人
		福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」大ホール		実績値	1,284人
2	広上淳一指揮 東京音楽大学シンフォニーオーケストラ	平成30年12月9日(日) 14:00～16:00	[出演]東京音楽大学シンフォニーオーケストラ 他 [曲目]R.シュトラウス：ツァラトゥストラはかく語りき 他	目標値	985人
		福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」大ホール		実績値	729人
3	ニューイヤーコンサート2019 ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団	平成31年1月14日(月・祝) 15:00～17:00	[出演]ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 他 [曲目]ヨハン・シュトラウスⅡ：ワルツ『美しく青きドナウ』他	目標値	952人
		福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」大ホール		実績値	1,033人
4	ワガノワ・バレエ・アカデミー「人形の精」、「パキータ」	平成31年1月27日(日) 16:00～18:00	[出演]ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー、セントラル愛知交響楽団 [演目]「人形の精」組曲、「パキータ」	目標値	941人
		福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」大ホール		実績値	894人
5	ロベルト・フォレス・ベセス指揮 NHK交響楽団 ピアノ：ソン・ヨルム	平成31年2月2日(土) 16:00～18:00	[出演]NHK交響楽団、ソン・ヨルム [曲目]チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番、ドヴォルザーク：交響曲 第7番 他	目標値	1,165人
		福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」大ホール		実績値	1,266人
6	多言語対応	事業番号1、5と同じ	ウェブサイトおよび公演チラシの多言語化(英語、韓国語)	目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	5208人
				実績値	5206人

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

総人口は80万人に満たない本県では、少子高齢化や若者の県外流出が、働き手の慢性的な不足や消費行動の減退に伴う地場企業の相次ぐ倒産等、本県の経済に深刻なダメージを与えている。

この度、補助金を得て実施した事業はいずれも、当ホールミッションである音楽文化の振興を通じて、県民の豊かな心と知性を醸成し、本県に対する愛着と誇りを創出することで、地域・人・経済の活性化へと繋げるための足掛かりとして計画した。どの事業も当初の予定通りに進行し、多くの成果を挙げることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

本県においてオーケストラ事業は最もニーズが高く、継続して実施することは、県民のニーズに応えるだけでなく、県外からの観光客の開拓にも繋がっている。今回、補助金を得たことで、これらのオーケストラ事業を活用し、当ホールが中期的な目標として掲げていた ①来場率の最も低い20代～30代を中心とした青年層の顧客開拓 ②地元企業や大学との連携 ③未来の音楽人材の育成 ④インバウンド環境の整備等を行うための関連新規事業を立ち上げ、それぞれ成果を挙げた。当初予定していた指標に達成しなかった項目もあったものの、新規に立ち上げ、具体的な数字をもって現状を知ることができたことは大きな前進である。

当事業団では、従前からPDCAによる事業のブラッシュアップに努めており、今後もPDCAサイクルを回し、継続的に改善しながら実施していくことで、中期的な目標の達成と、さらなる目標の設定へと向かうことができると考えており、補助金の意義ある活用に繋がったと言える。

【有効性】

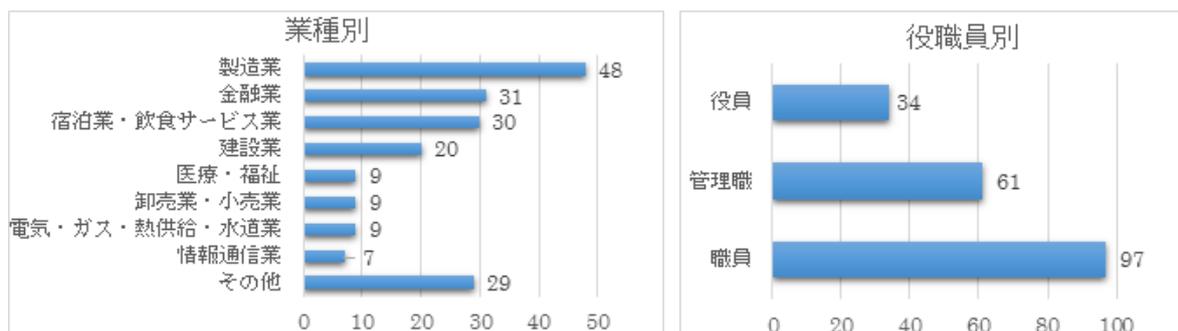
自己評価

目標を達成したか。

新規顧客層の開拓 | 指標 5 社、200人 (50人 × 4 公演)、実績 66社、192人

20代～30代を中心とした青年層の顧客開拓のための講座では、参加者数が指標に僅か及ばなかったものの、地元商工会議所との連携によって従来の協賛企業に加え48社、144人の新規参加を得た。さらに参加企業から1社、翌年度公演の協賛を新規獲得できたことから今後も継続し顧客開拓に努めたい。

[講座参加者数(人)]



学生の参画 | 指標10人、実績10(5人)

官学連携で取り組んだ鑑賞講座では、当日参加は5人だったものの、当日までの映像制作に出演者を含む10人の学生が携った。家庭の経済状況によりアルバイトを休めない学生も多く、大学として休日開催の事業への参加を強制できない背景がある。社会環境が複雑になっているが、将来的なホール運営や人材育成の為、この様な連携は模索し継続していきたい。

学生販売率 | 指標15%、実績14.3%

補助金を得たことで、音楽大学生から世界トップレベルの楽団、ピアニスト、バレエ団による公演と、教育熱心な県民に有意義な機会を提供できた。指標には至らなかったものの、前年度比2.2ポイントアップの数字に表れていると考える。

無料バス乗車率 | 指標90%、実績68%

来館に片道2時間以上かかる嶺南地域(県南側エリア)からの無料シャトルバスを県主体にて運行。地域的にディスアドバンテージを迫る住民への鑑賞機会を増やした。今年度は指標に及ばなかったが、交通弱者への配慮という観点から翌年度の継続運行が決定している。

インバウンド | 指標50人、実績64人

本県は外国人観光客数が低水準にあるが、ウェブサイトの一部多言語化したことで閲覧者が顕著に増えただけでなく、直接問い合わせの電話が入るなどチケット購入に繋がった。交通の選択肢が少ない本県において、今年4月の小松⇄香港の直行便運航、さらに2023年北陸新幹線の本県延伸を見越し、多言語化を進めていきたい。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間

公演開催の3か月前からチケット発売を開始し、ほぼ同時期から告知を行った。都心部では半年近くの発売及び告知期間があるのに対し、就業率が高い(63.6%)本県では、四半期のペースで計画・実行するスタイルが浸透している為、期間は3か月が適切と考えられる。告知は、会員へのDM、地元雑誌への広告掲載や、Web・メールマガジンはもとより、地元新聞社・テレビ・ラジオのメディア各社の協賛を得て、公演に合わせて手厚く広報を行った。

事業費支出

予算設定後も可能な限り、支出削減に努めた。

事業1

計画通りの支出だった。

事業2

行程等の見直しにより旅費・宿泊費を減額するよう契約先と交渉した。

事業3

計画通りの支出だった。

事業4

事業に関連し、協賛社の地元バレエ団にてレッスンを実施。本県で世界一流のバレエ教育を受ける機会を提供できた。また、交渉により本公演の出演料を減額することができた。

事業5

楽団員の人数変更に伴い、契約金額を減額した。

事業6

チラシ翻訳料は予算設定時より安く高品質なサービスを提供できる業者を調査し続けた結果、費用を削減できた。ウェブサイトの多言語化に伴い、Web広告も想定し予算立てしていたが、調査の末、費用対効果が低いことが判明した為、他の情報提供手段に切り替えた(韓国の音楽雑誌への広告掲載)。

事業費収入

企業のスポンサーを得つつ質の高いオーケストラ公演を手が届きやすいチケット料金で提供できるように努めた。券売の為の広報について前述のとおりである。

事業1

協賛社と交渉の結果、協賛金を増額できた。

事業2

チケット料金を値上げした(500円→1,000円)が、オーケストラ公演にしては低廉な金額。「気軽にオーケストラを聴きたい」とするお客様の要求に応えることができ、プレイガイド(販売数136枚)・当日券(販売数106枚)と販売も多く、顧客の裾野を広げることができた。

事業3、4、5

計画通りであった。

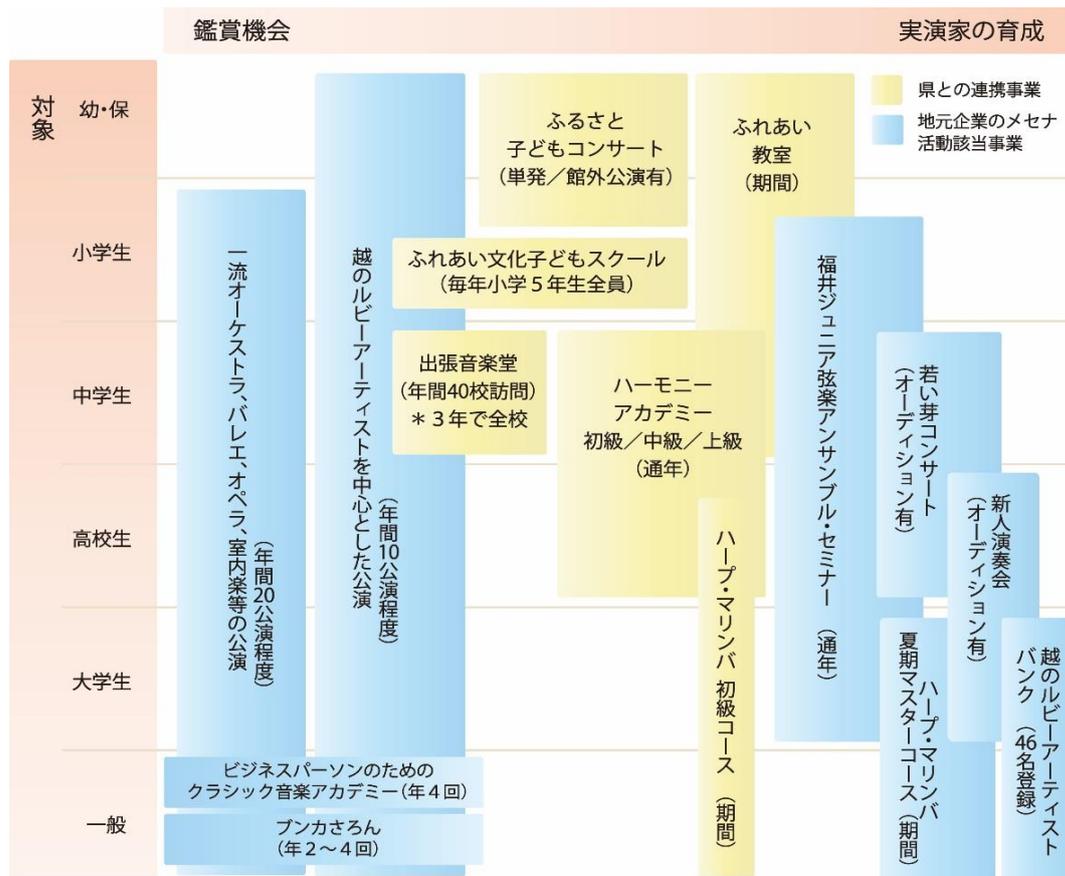
【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当施設は、総ての県民にとっての「マイホール」をスローガンに、音楽を中心とした新しい芸術文化の創造発信に努めてきた。毎年30本近い自主公演をはじめ、若手人材育成事業や普及啓発事業、アマチュア等の活動の場など、地域の文化拠点として館を運営している。特に教育的側面の強い事業については県や教育機関と連携し、県内唯一の専門人材を有したクラシック音楽専用ホールとして、下図のとおりその担うべき役割を発達段階に応じた多様なスタイルで果たし、公益財団法人としての長所を活かした事業運営を行っている。

[平成30年度 事業計画]



公演事業では開館以来20年余、行政の一貫した方針に基づき、地方都市では財政的、地理的理由により困難とされる欧米の著名オーケストラを招聘。地元にながら本物の優れた芸術に継続的に触れられる機会を提供してきた。世界最高水準のコンサートホールという高い評価(ex. dailynewsagency.com)を得ている充実した設備や音響特性を活かしつつ、選曲やキャスティングにも変化をつけることで多彩で質の高い公演を計画的に開催している。

本年度は全助成事業において、在京音楽大学から国内外一流オーケストラまで5楽団を招聘、大編成による管弦楽の鑑賞型公演を連続的に実施。年代を問わず且つクラシック音楽初心者から愛好者まで幅広い層の興味にふれるよう、出演者の地域性(日、韓、露、西、独、澳)や曲目を拡充させ、コンパクトな地方都市の利点を活かし、県全域を網羅する媒体を用い広報に努めた。

中長期的な目標に掲げる“20代~30代を中心とした青年層の鑑賞者掘り起し”を促進するため、商工会議所と連携して研修プログラムをスタートさせた(助成3公演が対象)。地元企業や産学官との連携、音楽人材の育成強化と活動支援など鑑賞に留まらない独自のスタイルで地域・人・経済を活性化させ、県民の地元への愛着と誇りの創出へとつながる事業を展開した。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

券売動向やアンケート等の実績分析から以下のニーズを把握。ノウハウやアイデアを活かした幅広い事業運営のもと、音楽文化の創造発信による地域の活性化をはかった。

著名オーケストラ等の鑑賞機会

29年度オーケストラ5公演の入場率は88.6%（年平均82.3%）と県民の高い期待を反映。30年度はバレエを加えた助成公演を実施し、来場者アンケートで91.2%の満足度を得た。本公演に併せ、音楽文化を軸とした企業研修を地元商工会議所と連携して新規開催、ユニークな取組みとして音楽専門誌に取り上げられた。

音楽人材育成の場

29年度子ども対象4公演の入場率は88.6%と高数値であり、親世代の子どもにも本物に触れさせたいとのニーズを分析。教育的視点から東京音大オーケストラを招聘し、本県にない専門大学とのタッチポイントを設けた。事前講座には地元大学生を参画させ、アートマネジメントに対する興味を喚起した。

地元演奏家や施設の活用

当施設が運営する本県縁の音楽人材バンクは、公民館講座や公的団体からの依頼演奏など利用数が拡大傾向にあることから、県民の期待感や満足度が窺える。助成公演のプロモーションを兼ねて開催した音楽と文化・食を融合させた発売イベントに地元演奏家を起用し、地域ニーズにも応えた。

企業のイメージアップ

開館以来、独自の協賛制度を設け、殆どの自主公演に冠を付して実施。企業のイメージアップをはかる文化支援活動に対し、県内企業の高い意識が根付いている。多様な支援方法を提案し新規企業の開拓にも努め、30年度は全ての自主事業に協賛・共催・連携を付することを達成した。

インバウンド誘致

本県は多数の観光資源を有しているが外国人観光客数は低水準にある。受入環境の整備による集客増加に着目しウェブサイトの多言語化に初対応した結果、海外からの閲覧者数が顕著に増えた。

※29→30年度 | 米国：414→1,253人、韓国89→389人

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

30年度は第4期指定管理期間の準備年度、開館から21年を経て中長期的ビジョンを実行に移すタイミング。補助事業を通し、特に人材確保、他ホール・教育機関・新規スポンサーとの連携の面で、持続的な組織活動の基盤形成ができた。これらを管轄する事業部20～40代制作者がPDCを行い、Checkによる諸問題を管理職会議に上げて改善することでActionに繋げる。このサイクルの繰り返しにより組織としての機能強化を図っている。

人事戦略、正規雇用率

定着しない若手職員のポストに補助事業で関係のあった音楽事務所経験者を応急的に採用。奏者のギャラ感覚や、プロモーション手法等を吸収し、逆に公立ホールに求められる公益性・公平性を伝授した。これを機に、広域に情報収集を行い、都心部ホール、プロオーケストラ事務局に勤務経験のあるいずれも本県出身者2名を採用。発想の固着化改善に寄与している。併行して平成30年度から令和元年度へは正規雇用率が約20ポイント上昇。若年層の安定的雇用により事業の持続性を意識した戦略的人事配置を行っている。

ホール間、教育機関、協賛社とのネットワーク

第3期指定管理期間以降、他ホール勤務経験者を計3名採用。関連ホールとは、デリケートな総務関連の情報交換も行える関係性にある。他ホールとの事業連携により特性を認識し合えるホールを増やし、効果的に連携できる体制を形成。

県内で唯一音楽科を有する大学からは、補助事業で教授と学生が事業制作に加わった。引き続き令和元年度には音楽講師を中心に組織されているNPO法人との協働企画も進めている。

商工会議所とのタイアップ、異業種交流会への積極参加を通し新規協賛社の開拓に努め、初回冠協賛公演に向けては代表者の他公演への招待、企業への訪問、アーティストとの面会設定などを計画的に行い、スポンサーの満足度向上をはかり、ひいては継続支援の機運を醸成している。